

2. フィリピンでの教育事情

I. オンラインレッスン

2020年3月突然始まったロックダウンにより、子供達は学校はもちろん習い事に通うこともできなくなりました。そんなコロナ禍で進化したのがオンラインレッスン！様々な分野の習い事があり子供から大人まで楽しめるのも魅力です。実際にオンラインレッスンを受けた方に内容や動機、感想を聞いてみました。

◆回答者◆

- ・Aさん：お子さま7歳(小2)男の子
- ・Bさん：お子さま5歳男の子、2歳女の子



1. オンラインレッスンの授業科目

【Aさん】英語、そろばん

※日本の同一オンラインレッスン提供サイトを利用

【Bさん】男の子：幼児教室(数量感や空間を認識する取り組み)

国語の学習教室

女の子：幼児教室(リトミックや工作、ワークなど)

2. オンラインレッスンを選んだ動機

【Aさん】

学校休校に伴いオンライン授業が開始され、息子が英語の読み書きが苦手なことが判明。幼稚園がインターナショナルスクールだったこともあり英語力のキープと読み書き向上のため開始。そろばんについては、息子が算数が好きのため小学1年生になったら習わせたいと以前から思っていた。

我が家の利用しているオンラインレッスンサイトは、幅広く様々な分野のレッスンを選択でき、入会金などもなく、トライアルレッスンも気軽に受けることができる。そろばん講師は、一度のトライアルで息子に合う方が見つかったが、英語講師は5人ほどトライアルを受け、今は日本語が堪能なアメリカ人の先生のレッスンを受けている。

【Bさん】

一時帰国していた日本から、ロックダウン中でいつまで学校がオンラインなのか分からないフィリピンへの再入国に伴い、日本では対面を選択していた幼児教室をオンラインに切り替えた。

3. オンラインレッスンを受けてみて

【Aさん】

家で手軽に受講できるところが気に入っている。居住先のマカティから BGC に習い事に行く往復だけでもかなりの時間を使っていた。車の中でお弁当を食べて夕食を済ませることもあった。

以前よりフィリピンで日本式のそろばん教室を探していたが見つめることができず、オンラインにより日本式のそろばんを学べることは嬉しく思っている。また、一時帰国で日本の学校に行くようになり英語力は低下しているが、レッスンを受けて読める単語は確実に増えたこともあり後悔はない。

子供の外出許可が出てもオンラインレッスンは続けたい。

【Bさん】

対面では家事の都合や兄弟の状況を考えて通学しなければならないことが大変だったので、家で手軽に受講できるところが良い。しかし、子供が PC を通して先生に見られることが恥ずかしい様子で、結局親が幼児教室、学習教室ともに教授法を習って子

供に教えているので、親に熱が入りけんかになることも。一方で教え方を学べるので親の勉強になる一面もある。

2歳の娘は工作もリトミックも楽しんで参加しているが、他の子供達や先生と直接関われる対面レッスンと同等の吸収ができているのか悩ましい。

II. コロナ禍での受験対策

日本の学校への転校・進学は不安や疑問が山積み…というご家庭も多いかもしれません。こちらではコロナ禍において受験や編入試験をご経験された方々やご家族の大変貴重な生の声をお届けします！



i. 高校受験・中学受験対策

◆回答者◆

- ・Cさん: お子さま 14 歳 MJS(中3)→高校受験
- ・Dさん: お子さま 13 歳 ISM(G8)→国立中学(3年)編入
- ・Eさん: お子さま 14 歳
ISM(G8)→日本の公立中学→国立中学(2年)編入
- ・Fさん: お子さま 14 歳 ISM(G8)→私立中学(3年)編入
- ・Gさん: お子さま 15 歳
ISM(G8、一時帰国中)→私立中学(3年)編入

※MJS: マニラ日本人学校、ISM: インターナショナルスクールマニラ

1. 学校の選び方

【Cさん】

国際生が多く、通学が密にならずに安心して通える環境を重視して私立に。オンライン入試を行う学校も増え、帰国生入試は早い学校は9月末から行われていたので計画が立てやすかった。

中3になった頃は全く学校が決まっていなかったのですが、帰国生向け受験説明会等に参加してある程度絞り込み、それ以降は興味がある学校のオンライン説明会の有無を定期的に HP 上で確認したり問い合わせをした。オンライン入試も、学校によって試験内容がかなり異なるため、各校に応じた対策が必要だと感じた。

【Dさん】

編入を考え始めた時期は試験1年前の11月、試験勉強を始めたのがその翌12月。編入試験の内容は英語のみ。入試の判定に願書の比率が高く反映される学校で、学校の成績が良く何事にも興味を持ち積極的に挑戦する子供には、願書に書けることが沢山あって良かった。

編入後、中学受験を経験してきた周りのお子さんの賢さに驚いている。

【Eさん】

教育方針、校風が合っているか。帰国生の受け入れ体制。国公立 or 私立、共学 or 別学。英語、グローバル教育にどのように力を入れているか。

【Fさん】

受験半年前から帰国生向けのオンラインによる学校説明会に参加。情報は、当時のISMの友人ライングループや他国駐在ママ友繋がり、“帰国受験”“編入”の検索ワード、各国の塾HPのバナーなどから探したり、過去駐在時代の友人や知人が通う学校の様子など伺った。学校のHPを見ると、帰国生向けの説明会情報が出ているので、日本国内のインターナショナルスクール、私立、海外留学など含め20校くらいチェックした。

我が家の決定ポイントは、国際バカロレア(IB)コースあり、寮あり、帰国生多数、校風が合う、OBに尊敬できる知人がいるという

5点で、私立1校のみ、中3編入試験を受験。寮を重視したのは、再度海外転勤の可能性も鑑み、その際に、本人が残るか帯同の選択ができるの良いかなと思ったため。なお、マニラ赴任の時点で、高校受験(帰国卒と一般共に)も視野に入れており、常に対策はしていた。

【Gさん】

まずネット、受験書籍などで帰国卒受験を行っている学校を探し、良さそうな学校をいくつか候補に挙げたうえで、直接電話やメールで問い合わせたり、学校説明会に参加したりした。学校説明会に行けない場合は、様子だけでもと直接学校を見に行った。娘はオンライン授業で忙しかったので、親が足を運び、様子を伝えたことも多かった。最終的に候補を3つに絞り、都内私立校1校のみ受験し、合格をいただき、現在通っている。

2. 塾(オンライン授業の内容)

【Cさん・Fさん】

通塾なし。

【Eさん】

国語、数学、英語、英語エッセイ対策。

【Gさん】

日本の受験塾に通った。入試直前は帰国生専門のオンライン個別指導の先生に、志望校に特化した対策をしていただいた。



3. 塾以外の学習

【Cさん】

通信教育を利用した。あとは学校の先生や卒業生に分からないところを質問していた。

【Eさん】

英検対策、漢検対策。

【Fさん】

親に講師経験があったので、毎日、日本の中1～中3の数学を90分程度しっかりさせていた。都立なら自作問題、私立は難関校相当を確実に狙う難易度の演習を行った。国語は、古文漢文の問題集と漢字、熟語を週1程度。現代文も多少。難易度的には一般都立や中堅私立校向けのもの。

ISMの課題等は本人のみで実施、親のアシストはなし。

【Gさん】

英語力維持のため、マニラ在住時に通っていた英語学校の先生にオンライン授業をお願いした。

4. ステイホームの中で子供のモチベーションを保つ方法

【Cさん】

規則正しい生活。3食をなるべく決まった時間に食べさせ、体内リズムを壊さないようにした。24時間一緒なので勉強していない姿を見るとつい言いたくなるが、ポジティブな声掛けを心掛けた。

【Eさん】

オンライン説明会、学校HPなどから学校情報を収集し、この学校に行きたい、入学したら何がしたいか等、子供自身が興味を持ちやる気を出す。塾の先生にモチベーションを上げてもらう。

【Fさん】

維持するほどのモチベーションなんて、本人には、はなから存在しておらず(笑)ただ、時間が余っていたので、新しい楽器に挑戦しようと、Market!Market!でバイオリンを購入して遊んでいた。あとは、お菓子や料理作り、少女マンガを読んでいた。

【Gさん】

娘は ISM のオンライン授業しか受けていなかったのですが、なかなか自分が受験をするという気分になれなかったが、日本の受験塾に通うようになってからは、必然的に段々と自覚するようになったと思う。また、家庭では HP や書籍を見せたり、直接学校を訪問することで学校や受験のイメージを持ってもらうようにした。

5. 学校や塾からのフォロー

【Cさん】

学校は面接の練習を良くやってくれた。



【Eさん】

子供の学力に合った学校選び、過去問に基づいた試験対策、面接対策、試験直前のメンタル面でのフォロー。

【Fさん】

編入試験だったため、Official Report の開示日より以前に、学校側へ成績表を提出する必要があり、仮成績表を作成いただいたり、Official Report を ISM から直接受験校へ送付していただいた。学業面でのフォローは特に無かった。

【Gさん】

帰国生専門の個別指導の先生からは出題傾向のアドバイスがあったが、あまり当たらなかった。編入という特殊な受験では、過去問題、範囲が公開されていないので予測は難しいのだと思う。

6. 帰国生の強み: フィリピンでのお勧め英語教育法

【Cさん】

フィリピンでは英語が通じるので、外に出て色々な場面で英語のリスニング、スピーキング等の訓練の場を作れると思う。英会

話教室や語学学校も多く、子供に合った学校選びが可能。

【Eさん】

ENL等の英語学校。メイドやドライバー、お店の人などと積極的にコミュニケーション。現地での習い事やイベントに参加する。

【Fさん】

帰国生の多い学校へ編入しているので、英語的な強みは特になかった(笑)強いて言えば、帰国生として英語ができるうえで、数学なり、国語なりが、在校生レベル以上に優秀であることが後々の強みになってくるかなと思う。また、ISMでの理科の実験や世界史の視点が、日本で学ぶ内容とは違う点が知り得たことと、IB的な体験は、この先の進路選びに役立ちそうな気はしている。

面接では、「記憶に残る授業はなんでしたか?」の質問の回答から、なぜそう考えるのかと深く掘り込んだ質問が繰り返されて、フィリピンの国民性や、過去の駐在国との比較など交えた回答を幾度もしていた。フィリピン人の考え方、その背景(歴史や文化)、フィリピンや他の途上国の課題などは、普段から家庭で話題に挙げておくと、「フィリピン帰国生としての強み」にはなってくると思う。複数駐在国があれば、フィリピンと似ている点や違う点なども、予め話しておくの良いかもしれない。

【Gさん】

積極的に英語で話し、聞く機会を増やすと良い。

7. 帰国枠受験の学校指定となる英語力を身に付けた時期

【Cさん】

英語力はなかったので、授業後に英会話を習い英検対策をした。英検取得で内申に追加点されたり、学校によっては英検取得が受験条件となっているので、コロナ禍になりフィリピンでの英

検受検ができず残念だった。

【Eさん】

試験前3ヶ月間。

【Fさん】

生まれてから小学校入学まで海外で英語環境だったことと日本での小学校6年間のラジオ英会話で、G7 Newcomer としてはキャッチアップは早かった。2、3ヶ月で日常会話は取り戻し、半年で社会の授業もついていけるようになり、G8では理社やESLで新入生の日本人の友人の通訳をしてあげていたそう。成績面から勘案すると、英語で学べるようになって、授業も楽しめてきたのは半年くらいからといったところだと思う。



【Gさん】

ISM に入学して、帰国卒受験できる英語力を身に付けたと思う。英語力を問われる帰国卒受験をするのであれば、インターナショナルスクールを選択すると良いのでは。

8. 英語力アップと日本語の勉強のバランス

【Cさん】

日本語で思いつかないと英語の単語で表現するのは、日本語力が落ちているためか、もしくは英語力が上がったからかと懐疑的になるときがある。英語力と共に、日本語での確かな表現ができる能力は大切だと感じる。

【Fさん】

各家での英語の捉え方次第だとは思うが、我が家は日本語が第一。国語面は、古文漢文や現代文といった中高生向けの国語の問題集は定期的にならせていた。また愛読家なので日本の活字に飢えていたタイプで、外出ができない時期は、食品表示や取扱

説明書などの日本語も漁っていた。あと少女マンガ(笑)!?

英語面では、CNN10 と授業で出た分からない単語を本人が調べていた程度で、親としては特にサポートはしていない。オンライン授業になってから Skype で英会話チューターを週2、友達とのチャット感覚で開始した。日本にいた6年間、英検の問題集や単語帳は毎日させていて、準1級相当の単語力はある状態で G7 スタートだったので、ISM で即実践といった状況だった。

【Gさん】

ISM に入学してからは、英語での授業、課題をこなすのに精一杯で、日本の勉強はほぼできなかった。

日本の学校に編入後、学習していなかった間の勉強を取り戻すことはとても大変だが、在比時の両立は難しかったと思う。

ii. 帰国生の大学受験体験談

◆回答者◆

・Hさん:ISM→国内私立大学進学

・Iさん:ISM→国内私立大学進学

1. 幼少期から高校卒業までの生い立ち

【Hさん】

0-1歳:フィリピン

1-8歳:UAE(現地ナーサリー→インター幼稚園→日本人学校)

8-9歳:日本(公立小学校)

9-13歳:マレーシア(日本人学校→インター小中学校)

13-18歳:フィリピン(ISM)

【Iさん】

0-2歳:フィリピン

2-4歳: 日本(幼稚園)

4-10歳: フィリピン(現地幼稚園→インター小学校)

10-12歳: ベトナム(日本人学校)

13-17歳: フィリピン(ISM)



2. 日本の大学を選んだ理由と受験対策

【Hさん】

日本の大学を選んだ理由は、英語のディプロマコースで AO 入試であったこと。大学は自由な雰囲気文武両立する生徒が多かった。また、入学後の英語の授業が豊富で、自分の勉強したい科目や環境もあったこと。

受験対策は、日頃から学校でプロジェクトや課外活動を盛んに参加するように心掛けた。日々大学についてネットで詳しく調べたり、卒業生や現役生と話したりした。勉強したい分野に関係のある教授の名前やセミナーなどの詳細な情報を得たり、その教授の本を買って読んだりもした。あとは、提出期限前の2ヶ月間くらい毎日願書の内容と向き合い、特にエッセイは、新しいエッセイを書く勢いで毎日内容を改善していった。

【Iさん】

日本の大学を選んだ理由は、ほとんど海外で育っているので日本に住んでみたいと思ったこと、その大学に憧れがあり雰囲気が自分に合うと思ったこと、総合大学で色々な人と出会えると思ったこと、東京であればより多様な経験ができると思ったこと。

受験対策は高校の日々の勉強と活動、日本の国際予備校(卒業後の6月～翌年3月まで)。

3. 進学についての悩みやアドバイスを受けた機関

【Hさん】

帰国生向けオンライン家庭教師サービスで、実績のある家庭教師（現役大生）を紹介してもらい、主にエッセイや提出書類等のアドバイスをもらった。また、家族にもエッセイを読んでもらい多くのアイデアをもらった。

【Iさん】

学校のカウンセラー、家族や知り合い、高校の先輩。

4. 試験内容

【Hさん】

願書（経歴書や成績表などの一般的書類の他、詳しい活動記録、課題エッセイ、3分ビデオ、課題スライドなど）の提出。

【Iさん】

日本語での学科筆記試験、面接、小論文など。

5. 受験に必要なだった資格や条件

【Hさん】

海外現地校卒業資格およびIB等ディプロマ資格。

【Iさん】

IB、TOEFL。

6. 進学してみたの感想、卒業後のプランや展望

【Hさん】

実際に進学してみて、思った以上に自分に合っている大学だった。生徒達はそれぞれユニークで、面白いアイデアを持った人が沢山いた。

【Iさん】

最初は慣れるまで1人で住むのは大変で、慣れても新しいことはあるし困ることもあるが、何とかなっている。

周りに私のような帰国生は少ないが、結局日本で育った一般生でもみんなそれぞれ個性や価値観が違うことを実感し、色々な人に出会えて刺激をもらえる日々で楽しい。帰国生でも案外慣れて馴染めるし、少数派なので覚えてもらえ、みんなに助けてもらって充実した学生生活を送っている。

※ご参考: マニラの高校から海外大学への進学の場合

- マニラにおいて家族で長期滞在を考える場合、日本人学校が中学部までしかないため、高校進学はインターナショナルスクールを選択することになり、その後、日本または海外の大学への進学を検討することになる。
- 大学入試は、通常 IB 資格、または SAT 資格で受験する。アメリカの大学への進学を希望する場合、SAT の Score Report を要求される。
- IB 資格を取得できるインターナショナルスクールかどうかは、事前に確認が必要。なお、ISM は取得可能。
- 多くの海外の大学は、9月入学に向けて5月頃までに以下の書類を要求される。オンライン申請可能。入学可否もオンラインで通知。大学毎にネットにて要綱の確認が必要。
 - ・IB、または SAT の Score Report
 - ・TOEFL Score Report (ETS TOEFL iBT)
 - ・高校での成績証明 (IB、SAT にて代用となる場合もあり)
 - ・小中高での学生生活記録 (大学毎の様式) など

3. 生活インフラ情報収集方法

最後に、様々な生活インフラ情報を収集する際、編集委員が実際に使っているツールをまとめてご紹介します。ぜひチェックしてみてください！

I. 生活インフラ全般

- Facebook の情報交換グループ
e.g. 「フィリピン何でも情報交換！（メンバー約 2.1 万人）」
「Ma'am Manila（メンバー約 4,500 人、英語）」
- ビレッジや地域コミュニティの Viber/Facebook グループ
- LINE のオープンチャット
e.g. 子供の歯のケア（歯科衛生士が回答してくれるもの）
知育全般（幼児教室の先生が回答してくれるもの）
- その他、各種メディア、個人ブログ、Instagram、YouTube など

II. 災害情報

- 在比日本国大使館からのメール
- CNN フィリピンや ABS-CBN などのニュース（TV や WEB サイト、Twitter など）
- フィリピン気象庁 PAGASA の WEB サイト
<https://www.pagasa.dost.gov.ph/>
- フィリピン火山地震研究所 PHIVOLCS の WEB サイト
<https://www.phivolcs.dost.gov.ph/>

